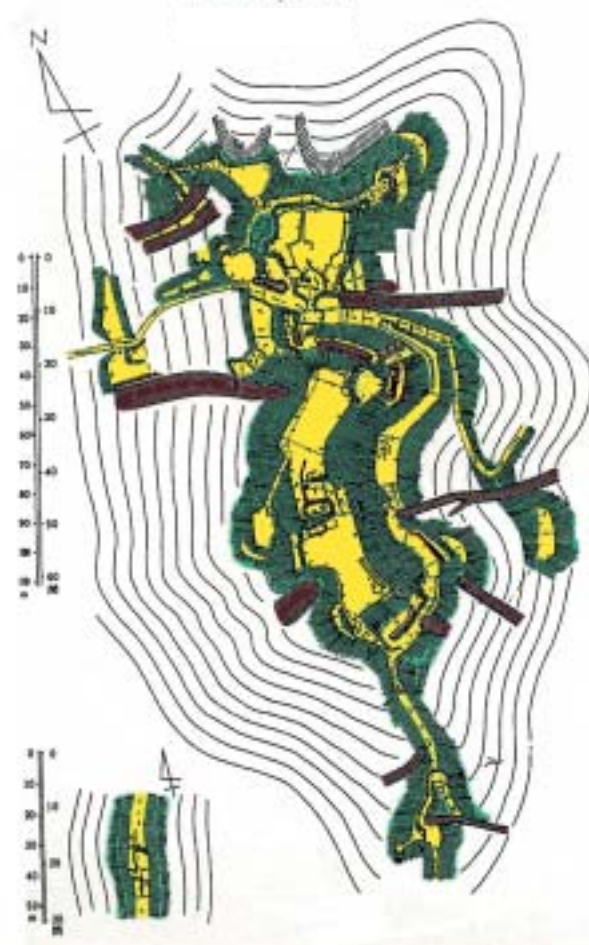


宇佐山城跡

宇佐山城は元亀元年頃に、織田信長が比叡山の監視および上洛する浅井・朝倉連合軍に対抗するため、森可成に命じて築城したと言われています。また延暦寺焼き討ち後、滋賀郡に入った

明智光秀は、坂本城が完成するまで居城にしていたと言います。側に延びる尾根の先端、宇佐山の山頂を中心に築城されており、眼下に今道越(山中越)を押さえる位置にあります。
南北に細長く延びる尾根上の二つのピークを利用して、北から三の丸・本丸・二の丸が築かれ、その周囲には小



宇佐山城縄張り図



宇佐山城跡石垣

規模な郭があります。石垣は随所にあります。高きのあるものは現況ではあまり見られません。また本丸と二の丸を接続する虎口は外枳形状で、枳形を構成する櫓台状の高まりにも石垣が用いられています。なお、発掘調査では瓦はほとんど出土していません。

これらのことから宇佐山城は、志賀の陣における戦略的拠点として意味を持つ他、中世城郭から安土城に代表される織豊期城郭への過渡期の城として重要な意味を持つと言えます。

壺笠山城跡

壺笠山城は、元亀元年に浅井・朝倉連合軍が、志賀の陣に際して立てこもった城で、『信長公記』には「はちヶ峰、あほ山、つぼ笠山に陣取り・・・」と見えます。

大津・京都間を結ぶ街道には今道越(山中越)と古道越(白鳥越)がありますが、前者を押さえる宇佐山城に対し、壺笠山城は青山城等とともに、後者を押さえる位置にあります。また本城と対峙する関係にあった宇佐山城は、直線距離にして約3km南に位置します。
城は、比叡山系の主稜線より琵琶湖側に延びる尾根上のピーク、壺笠山の山頂かつ前方後円墳上に築城されています。城の主要部は古墳の後円部で、主郭の周囲に帯郭が全周します。

散乱する石材



古墳の前方部には、主郭への通路がありますが、この通路には多くの小型の郭が付随して守備を固めるようです。城中心部に見られる石垣(石積)や、折れを持たせた虎口に、やや新しい様相を見る向きもありますが、これは後に滋賀郡を支配した明智光秀が改修の手を加えたとの見方によります。



壺笠山城縄張り図

城の主要部は古墳の後円部で、主郭の周囲に帯郭が全周します。